

JSL 高校社会科教材「地理総合」 教師用ガイド

【本教材の趣旨】

この教材は、帝国書院の教科書である『高等学校新地理総合』を参考に、地理総合における基礎知識の定着を図るために作成しました。身近な日本地理から、世界に目を向け、その上で現代社会が抱える諸課題を考えられるような Unit 構成になっています。

各 Unit には、授業用のワークシート、予習・復習シート、必要に応じて白地図課題があります。

授業用のワークシートは、図や表をふんだんに使いながら、楽しく地理を学べるようになっています。また、予習シートには、授業を実施する上で事前に調べてきてほしい事柄などをピックアップしました。そして、復習シートでは、授業後にさらに学びを深めるために様々な課題を設定してあります。ぜひ、必要に応じてお使いいただければ幸いです。

【各 Unit における支援のヒント】

I 日本の位置・領域・自然環境

【Unit I-1】では、国家の領域や国境について扱っています。特に、日本における領土問題に関する箇所は、中華人民共和国・韓国・ロシア出身者への配慮は必要になるかと思います。授業で扱った日本政府の考えを踏まえた上で、自国で学んできたことと照らし合わせて、今後どのように解決すべきか、対話をする機会を設けられると良いかもしれません。

【Unit I-2】では、日本列島の地形と気候について扱っています。特に、【地形別に見た日本の人口割合】の図や、【日本の河川と外国の河川の勾配】の図を丁寧に解説してあげることが必要です。また、日本各地の気温と降水量の雨温図に関する箇所では、那覇や札幌など日本の様々な都市の写真を別途示してあげると、よりイメージが付きやすくなると思います。また、日本人にとってはなじみのある地名でも、JSL 生徒にとっては、いったいどこにあるのかがわからないのが普通です。必ず、地図上で示し、確認するようにしてください。

II 世界の気候と人々の生活

【Unit II-1】では、温帯・亜寒帯・寒帯の気候に関して扱っています。温帯の特徴である「四季の変化が明瞭」という部分に関して、四季がない地域から来た生徒に対する、春夏秋冬の知識に関するフォローが必要になるかもしれません。また、雨温図の読み方に関しても、それぞれの気候に結び付けた形で解説をお願いします。ことばで説明する前に、雨温図から読み取れること（いつ雨が多いのか、など）を話させるのも良いでしょう。

【Unit II-2】では、熱帯と乾燥帯の気候に関して扱っています。植生の部分では、別に密林やサバナの写真を提示しながら授業をすすめていくと、より理解が深められると思います。また、農業における商品作物も同様に写真を提示すると、イメージが付きやすくなるでしょう。

NHK for School のビデオクリップは、多言語に対応していますので、授業の前に見てくるように紹介しておくとう理解の助けになります。

III 自然環境と防災

【Unit III-1】では、地震・津波の被害と被災地の取り組みに関して扱っています。そもそも地震が起こらない地域から来ている生徒がいる可能性があるため、根本的に地震そのものに関する知識のフォローが必要になる場合があります。そのため、「日本に来てから地震に遭遇したことがあるか」という発問を導入にしてすすめてみるのも良いかもしれません。また、阪神大震災や東日本大震災の様子は、NHK の映像アーカイブスのサイトに当時のニュース映像が残っているため、こちらも併せてご活用ください。

【Unit III-2】では、火山の恵みと災害に関して扱っています。こちらも日本特有の災害対策であるため、地震

の時と同様に、そもそも「山が噴火することがある」という知識をフォローしながらすすめていただければ幸いです。その際、NHK for school では、桜島の噴火の映像などがアップされているため、このような映像資料を活用しながら進めてください。

地震や火山活動などについての基礎知識があるかどうかも重要です。事前に、その部分の補足が必要かどうかを確かめておかれると良いでしょう。

IV 世界の地形と人々の生活

【Unit IV-1】では、大地形・変動帯・安定地域について扱っています。生徒たちの母国が変動帯と安定地域のどちらの地域に属していて、実際にどのような生活を送っていたかをまとめた部分で共有できると、より理解が深まるのではないかと思います。

【Unit IV-2】では、小地形について扱っています。特に河川の下流域の地形で出てくる「ニュータウン」や「工業団地」については日本独特のものであるため、補足説明が必要になると思います。また、干潟（例えば、有明湾など）や陸繋島（例えば、江の島や函館山など）などの独特な地形も、実際に写真を提示しながら授業をすすめてください。

V 世界の言語・宗教と人々の生活

【Unit V】では、世界の言語・宗教について扱っています。ここでは、日本人の宗教観が世界に比べて特殊であることを、季節の変わり目の行事を例示することによって理解が深められたらと考えています。なお、世界宗教の箇所に関しては、様々な信仰に配慮しながら授業を進めていくことが大切です。教師側からの説明は、あくまで、「例示」ということにとどめておきましょう。JSL 生徒の側に、自分の宗教や文化について紹介してもらうことは、日本人の生徒にとっても良い学びになります。

VI 世界地誌

世界地誌は、日本となじみが深い地域である東アジアの中華人民共和国・韓国とアメリカ合衆国・ヨーロッパをピックアップしました。【Unit VI-1】では、中華人民共和国・韓国を主に扱っています。これらの国の経済成長を切り口として、ワークシートを作成しているため、「計画経済」や「市場経済」などの経済用語に関する補足説明が必要になるかと思います。【Unit VI-2】では、アメリカ合衆国・ヨーロッパを主に扱っています。こちらも、両地域の産業を切り口にワークシートを作成しています。重工業や鉱工業・先端技術産業など、それぞれの産業の中でどのようなモノが作られているのかを例示しながら授業をすすめてください。また、農業の部分における、「適地適作」や「灌漑農業」、「放牧」、「酪農」、「畑作」などの様々なやり方に関する補足説明は、実際に行っている場面の写真などを提示しながら行うと良いでしょう。

JSL 生徒自身に、自国について話してもらう機会を確保するよう心がけていただけるといいと思います。

VII 人口問題・VIII 食糧問題

Unit VII と VIII に関しては、世界で抱える諸課題について、生徒に最も身近だと考えられる人口問題と食糧問題をピックアップしています。【Unit VII】では人口ピラミッドの読み方そのものを丁寧に解説して頂けたら幸いです。世界各国の人口ピラミッドは、それぞれ大変特徴的なもので、JSL 生徒に発表してもらうと盛り上がります。

【Unit VIII】では、「穀物の使われ方」に関する帯グラフや「地域別の 1ha あたりの穀物収量の推移」のグラフについて、それぞれ読み取り方の解説が必要になると思います。様々な国や地域の資料を読み解くことに挑戦することは、資料読解の良いトレーニングになるでしょう。読み取ったことをもとに、生徒の母国の状況を対話しながら共有できると、より理解が深まるのではないのでしょうか。

【おすびにかえて】

今回作成した Unit I ～Ⅷは、まずは日本のことを理解して、その上で世界についての諸課題を考えるように組み立てています。そのため、帝国書院の教科書とは異なる進め方になっています。また、授業をすすめていく中で、「このUnit を先にやったほうが良いかも」という場面が出てきた場合は、順番が前後しても構いません。

ぜひ、目の前の生徒の理解度に合わせながら、使用していただけたら幸いです。

なお、紙教材としてお使いいただくほかに、デジタルで配信し、タブレットにペンで書き込んだり、探してきた資料をはりつけたりといった使い方もできます。生徒のスキルに合わせて使用方法を選択してください。